

大歳 卓麻氏

日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員

#127



紹介者



藤森 義明氏
日本証券・エレクトロニクス 取締役会長

近年の企業の社会的責任への関心の高まりは、

して顕在化してきているという状況があります。

かないと決して定着しないと思います。

企業活動における信頼と責任について、自らあらためて見つめ

私は、そういった個人の力、発言が影響力を持ってきたことをとても良いことだと思っています。企業も、事業や業績に関わることだけ

私どもの会社でも、一足先に厳格化された米国流のガバナンスを導入していますが、その移行期には多くの苦労もありました。

直す良い機会であると思います。

ではなく、事業目的以外の諸活動のすべてにわたって信頼と責任が求められています。経営のガバナンス、健全化はもつとも重要ですが、信頼と責任ある行動の実践を組織の隅々まで浸透

組織も個人も、信頼と責任を果たすために、あらゆる知恵を使い努力が求められるのは当然です。しかしながら、例えば、今、対策が盛んな日本版企業改革法（J-SOX法）についても、大前提にある同法の主旨が浸透されないまま、手続きの文書化、活動の記録、保管がいかに完璧に行われても、本来の目的には適わないということが容易に起こり得ます。私どもが痛みを

個人が企業の行動に注意を払い、また、企業に属する人たちが、組織の論理だけにとらわれず、個人の良識で行動するようになってきました。こうした個人の意識の変化を背景に、企業の論理や業界の慣習という理由で、以前なら問題視されることがなく見過ごされてきたことが、最近是不祥事と

特に、今まで当たり前に行われていたことを根本的に変えなくてはいけない時に、新しい考え方が同じ人たちの心に本当に落ちてい

に「登場いただきます。」

次回

岩沙 弘道氏

(三井不動産 取締役社長)

企業の信頼と責任について

伴う経験から得た一番の教訓は、社員の一人ひとりがどこまで、「事実を事実のまま記録する」ことや「手続きを迂回しない」ことの重要性を心の底から納得しているにかかっていると

経済のグローバル化や外国人株主比率の高まりを踏まえて、国際基準での透明性や健全性がさらに求められています。環境変化に適応し、組織の一人ひとりの「人」の気持ちの持ち方をいかに芯から変えることができるか。リーダーの役割がますます重要になってきていると思います。